

災害が瞬間 まちを襲う

私たちの身近にある山や川。豊かな自然に囲まれた川西市の特長です。普段何げなく通る河川敷や山道は生活に潤いを与えてくれます。しかし、降雨量の多いこの季節、美しい景色は同じように私たちを迎えてくれるとは限りません。一步間違えれば生命を奪う自然の脅威に、私たちは備えなければいけない。あなたの周りの危険は何ですか。助けてくれる人はいるでしょうか。普段の心掛けが、あなた自身を守ります。

【問合せ】危機管理室 ☎ (740) 1145



台風がもたらした戦慄 26年8月10日「川田架道橋」南側

JR福知山線と県道13号の交差するアンダーパス横で冠水発覚直後、地域の消防団が駆け付ける

Voice

到着後すぐ、「これは大変だ」と思いました。戦慄が走りましたね。マンホールから大量の水が勢よく溢れ出ていたんです。

「人的被害があつてはいけ
ない」と、何よりも先に交通
整理を始めました。

近くに民家があつて、水は
床下まで達していました。
土のうを積む作業を続けるん
ですが、無常にも水高はどん
どん上がっていく。深さは最
大で60センチくらいでしょうか。

道路の脇から、アンダーパ
スにも水が流れ込みました。
「やばいな」と思いましたね。

ただ、あのときは既に小康
状態で、水がその後引いて
いったのは不幸中の幸いで

現場は被害を予想した場所ではなかった



川西市消防団第一分団栄根部
部長 上野 武夫さん

。去年の台風第11号はスピー
ドが遅く、確か僕らは、前日
9日の昼頃から消防団の格納
庫に詰めていたはずですよ。不
安でした。あれだけ降雨が
続くと。

普段から見回っている地域
のいくつかの場所が脳裏をよ
ぎりました。「何とか被害を
防止したい」。そういう目で
見るから分かる危険な場所つ
であるんですよ。

同じ頃、市内中部でも矢間
や鼓が滝では冠水があつたと
聞いています。東久代運動公
園も浸水被害に遭いました。

時間雨量が最大50mmを超え
る雨が2日にわたり降つたわ
けです。そんな状況になつ
たのも納得できます。

最近の気候は分からない。
降水量など、想定をはるかに
超えることが多々あります。

事実、僕らの駆けつけた現
場の冠水も、予想していた場
所ではありませんでしたか
ら。

昨年8月の台風第11号は、10日午前6時過ぎに高知県安芸市付近に上陸。その後、四国地方をゆっくり北北東に進み、午前10時過ぎに兵庫県赤穂市付近に再上陸。近畿地方を北北東に進み、午後2時前に日本海へと抜けた。低速の台風は豪雨を引き起こし、市内では、9日未明から雨が降り始め、10日夕方まで断続的に降り続いた。

全戸配布している「川西市防
災マップ」も参照し、普段
から、避難所の確認を！



あなたの住まいの近くで
避難できる場所を

CHECK

避難所・避難場所

施設名など	住所
北久代会館※1	久代2丁目5-6
久代会館※1	久代2丁目12-6
川西南中学校	久代3丁目3-1
川西南公民館	久代3丁目16-29
久代老人福祉センター	
久代児童センター	久代3丁目16-30
久代春日会館	久代3丁目25-9
久代小学校	久代3丁目27-9
西久代会館	久代4丁目2-7
東久代春日会館※1	東久代1丁目3-17
東久代会館※1	東久代2丁目10-11
加茂第二会館※1	加茂1丁目13-3
加茂会館	加茂3丁目8-8
加茂ふれあい会館	加茂3丁目13-23
加茂小学校	加茂3丁目14-1
下加茂会館※1	下加茂1丁目22-29
南花屋敷会館	南花屋敷3丁目2-16
南花屋敷中央会館※1	南花屋敷4丁目11-5
川西小学校センター	栄根1丁目1-1
栄根会館※1	栄根1丁目8-18
小花会館※1	小花2丁目22-5
鶴寿会館※1	小戸2丁目13-12
寺畑会館	寺畑1丁目4-18
花屋敷会館	花屋敷山手町15-7
桜が丘小学校	日高町4-1
総合センター	日高町1-2
総合体育館	火打1丁目1-4
中央公民館	丸の内町5-1
川西北小学校	丸の内町7-1
川西中学校	松が丘町1-1
明峰小学校	萩原台西3丁目242
明峰公民館	萩原台西3丁目282-11
明峰中学校	湯山台1丁目39-1
満願寺ふれあい会館	満願寺町5-22
久代幼稚園※1	久代2丁目12-1
加茂幼稚園	加茂1丁目4-5
川西幼稚園※1	小花1丁目16-13
川西北幼稚園※1	丸の内町7-1
東洋食品工業短期大学(体育館)※1	南花屋敷4丁目23-2
アステ市民プラザ	栄町25-1(アステ川西6階)
アステ川西びびう広場	栄町25-1(アステ川西1階)
川西明峰高校	萩原台西2丁目324
川西緑台高校	向陽台1丁目8
川西北陵高校	緑が丘2丁目14-1
平木谷池公園	大和西2丁目5
清和台中央公園	清和台東3丁目1
水明台第5公園	水明台4丁目8
けやき坂中央公園	けやき坂2丁目62
湯山台運動公園	湯山台2丁目79
北ひばりが丘公園	南野坂2丁目1
市民運動場	向陽台1丁目11-1

これまで、浸水想定区域内の避難所や避難場所(下表※1)は洪水時に使用できませんでしたが、災害対策基本法の一部改正によって、2階以上の上階を緊急時の避難場所として使えるようになりました。区域内の避難所では、浸水の可能性がある1階ではなく、2階以上に避難してください。

東谷公民館(下表※2)は、耐震補強工事のため、6月1日から28年3月31日まで利用できませんのでご注意ください。

施設名など	住所
多田中学校	新田2丁目29-1
多田東小学校	東多田3丁目21-1
多田東会館※1	多田桜木1丁目7-24
多田公民館	多田院1丁目5-1
多田小学校	多田院1丁目4-1
緑台公民館	向陽台1丁目6-38
緑台小学校	向陽台1丁目7-1
緑台老人福祉センター	緑台6丁目1-79
市民体育館	向陽台1丁目11-1
陽明小学校	向陽台3丁目6-219
緑台中学校	向陽台3丁目11-35
清和台小学校	清和台東2丁目2-2
清和台中学校	清和台西2丁目3-57
清和台公民館	清和台西3丁目1-7
清和台南小学校	清和台西5丁目1-2
けやき坂小学校	けやき坂3丁目1-2
多田幼稚園	多田院1丁目4-3
松風幼稚園	水明台1丁目1-20
清和台幼稚園	清和台東2丁目3-4
けやき坂公民館	けやき坂2丁目63-1
東洋ゴム工業(株)	矢間3丁目10-1
東谷公民館※2	見野2丁目21-11
東谷小学校	見野2丁目30-1
東谷中学校	見野1丁目9-1
牧の台小学校	大和東1丁目47-1
牧の台会館	大和西2丁目5-1
一の鳥居老人福祉センター	長尾町6-17
北陵小学校	丸山台1丁目3-2
黒川公民館	黒川字谷垣内295
東谷幼稚園	見野2丁目29-24
牧の台幼稚園	大和東1丁目47-5
北陵公民館	丸山台1丁目5-2
国崎クリーンセンター	国崎字小路13
大阪青山大学北摂キャンパス(体育館)	長尾町9-8

※1 洪水時は2階以上に避難してください(1階使用不可)
※2 東谷公民館は耐震補強工事のため27年6月1日~28年3月31日使用不可

福祉避難所

施設名など	住所
養護老人ホーム満寿荘	湯山台2丁目46
ひまわり荘	湯山台2丁目46
緑台デイサービスセンター	緑台6丁目1-79
久代デイサービスセンター	久代3丁目16-30

※福祉避難所は、一般の避難所では生活に支障があり、特別な配慮を必要とする人が対象で、災害発生当初には開設されません。必要に応じて開設される避難所です

自助

雨の続く季節。水害や崖崩れなど、いつ起こるか分からないものです。身近に危険が迫ったとき、どう動けば良いのでしょうか。近くの避難所はどこか、緊急情報はどうやって流れてくるのか、この機会にチェックしてみたいはかがでしょうか？



危機管理室
白石 淳

かわにし安心ネットなどで 災害時は緊急情報に注意

昨年は、台風や局地的な豪雨により、市内でも多くの被害が出ました。8月9・10日には、300mm前後の降雨量を観測し、市内4カ所で冠水。13カ所で土砂災害が発生しました。家屋など一部破損7件、床上浸水2件、床下浸水13件の被害が出ています。思わぬ被害をもたらす自然災害。自分自身や家族を守るためには、しっかりとした判断が重要です。市では、災害時に緊急情報を発信。かわにし安心ネットをメールを配信しているほ

か、各携帯電話会社サービスの「エリアメール」・「緊急速報メール」、広報車、市ホームページ、市公式フェイスブック、ケーブルテレビ、マスコミなどを通じてお知らせしています。ただ、避難情報などを受け取っても、道路冠水や自宅敷地内への浸水など、外へ避難することが危険な時は、自宅の上階などに避難することも一つの方法かもしれません。出水期の今、万が一に備えるには、日頃から家族で防災について話し合うことが大切です。備蓄品や持ち出し品を確認してみてください。風水害の中でも、降雨の影響などによる土砂災害は、いつどこで発生するかわかりません。大雨警報に加え、土砂災害警戒情報が発表されたときは、危険性が大きく上昇します。アンテナを張り、早めの行動を取ることが、あなたや家族の命を守ります。

昨年は2日間で300mmの降雨を記録。思わぬ被害をもたらす自然災害

自分で身を守る

避難情報の段階

避難準備情報

高齢者や障がい者など時間を要する人が避難行動を開始する段階

避難指示

人的被害の発生する危険性が非常に高い段階。直ちに避難行動が必要

避難勧告

通常の避難ができる人が避難行動を開始する段階

避難情報は災害の発生時などに現地の状況を見て発令するものです。違いをよく理解し、自らの身を守ってください。危険を感じる場合は、自らの判断で早めに避難してください。

避難準備情報 弱い
避難勧告 拘束力
避難指示 強い

かわにし 安心ネット

アドレスを登録すると、緊急情報などをメールで配信。ぜひ皆さんもご登録ください。配信される情報は、市内の避難勧告などの避難情報や災害情報、警報・注意報などの気象警報など。下の2次元コードや、かわにし安心ネット(URL = <http://bosai.net/kawanishi/>)、市ホームページから接続できます。



事前にやっておきたい 備蓄品や避難の準備を CHECK

いざ災害が起こった時、迅速に動くためには、事前の準備が欠かせません。自分たちの身の安全を守るためには、「何よりもまず避難」が大原則。避難に向けたポイントを紹介しします。

災害が起こる前に

避難ルートを確認する 5ページの避難所・避難場所一覧やハザードマップを使い、避難ルートを事前に確認してください。

連絡方法を決めておく 災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板など、災害時の連絡方法をあらかじめ家族などで相談してください。

【災害用伝言ダイヤル171】

災害時に音声発信がつながりにくいとき、伝言の録音が可能。

【災害用伝言板】

災害時に音声発信がつかないとき、携帯電話やパソコンから安否情報を発信。

【災害用音声お届けサービス】

音声通信に代わって、携帯電話などから、パケット通信を使い、音声メッセージを届ける災害時専用のサービス。

災害が発生したら

迅速に避難する 災害が起きてから持ち出し品の準備などには取り掛からず、すぐに避難してください。

避難したら戻らない 自宅などに貴重品などを忘れていても、取りに帰るのは非常に危険です。安全が確保されるまで、避難場所から帰宅してはいけません。

備蓄品の準備

災害時の非常持ち出し品や備蓄品を準備することはとても重要です。以下はその一例です。参考に確認してみてください。

【非常持ち出し品】

- 現金 預金通帳 印鑑 保険証
- 免許証 懐中電灯 携帯ラジオ
- 予備の乾電池 ヘルメット・防災ずきん
- 厚手の手袋 毛布 缶切り
- ライター・マッチ ナイフ
- 携帯用トイレ 救急箱 処方箋の控え
- 胃腸薬・便秘薬・持病の薬 生理用品
- 乾パン 缶詰 栄養補助食品 飲料水
- 下着 長袖・長ズボン
- 防寒用ジャケット・雨具 携帯用カイロ

【備蓄品】

- レトルト食品・アルファ米 飲料水
- インスタント食品 給水用ポリタンク
- カセットコンロ ティッシュペーパー
- ラップフィルム 紙皿など 簡易トイレ
- ランタン 長靴 ビニール袋

Web119を利用する

音声による119番通報が困難な人が対象 災害時以外も利用可能

携帯電話のWeb機能を利用し、文字情報で緊急通報が可能。GPS機能付きの場合は位置情報も送信できます。利用には申し込みが必要。詳しくは市ホームページか宝塚市・川西市・猪名川町消防指令センター☎0797(77)0119へ。

共助

もしものとき鍵になる地域での支え合い。その重要性を感じ、動き出した地区があります。災害時に手助けが必要な人を助けるための手順を示す「避難行動要支援者個別支援計画」。市内北部の緑が丘地区では、水害への体制づくりが始まっています。

何よりもまず 地域同士の輪を広げること

いざというときに助けてくれるのは、すぐ隣の人だったりします。だから、地域でつながれないかって思うんですね。「避難行動要支援者個別支援計画」の体制づくりを進めるうちに、そういう思いが湧いてきました。私たちが住む緑が丘地区は山間であって、高台と川沿いの地域が混在します。ハザードマップ上の土砂災害警戒区域と浸水予想区域にも指定され、長雨などの時には注意が必要です。



東谷地区福祉委員会
委員長 片峰 純子さん

地区内には避難行動要支援者が居住し、それ以外にも手助けが必要な人が住んでいます。災害時、手助けが必要な人に対し「誰が誰を助け、どう動くか」を決めなくてはならない。それが、体制づくりへの動機です。ただ、それよりもまず、地域同士の輪を広げようと思いました。「仲良くなろう」と。緑が丘は、地域によって開発時期が違います。住む地域によって、ご近所付き合いや防災への意識が違うこともあるんですね。どうしたら、みんなが知り合えるかなって考えました。昨年開催した自治会館でのイベント「冬まつり」は、そのためのものでした。結果的には、小さな子からお年寄りまで20人以上も集まってくれました。その後案内した図上訓練には、自治会や民生委員・協力員、福祉委員会、東谷小学校

ご近所で身を守る

要支援者を助けるために始めた活動。気付かせてくれた大切なこと

いざというときに助けてくれるのは すぐ隣の人だったりします

区コミュニティ推進協議会、防犯センターから代表して15人の参加がありました。訓練は、河川が溢れてしまうケースや、道が寸断されるケースを想定しながら、要支援者をどう一時避難所へと誘導するかというもので、地域全体を眺められるよう、地図を使いながら進めました。議論をするうちに、「ご近所の話になるんですよ。」「同じ地域に住んでいるんだな」と再認識できる場にもなりましたね。きっと、あいつ訓練やイベントなどの地域活動で、地域の輪はできていくんだと思います。そして、その輪がいつか頼りになる存在になる。そう、信じています。まだ道半ば。個別支援計画の体制づくりは、これから煮詰めていかなければいけません。今回、要支援者のことを考えることで、地域同士のつながりの大切さを考えるきっかけとなりました。取り組みを進め、市内の防災活動のモデルケースになるような、災害に強い地域になればいいと思いますね。

災害の被害を最小限に抑えるため協力を



危機管理室長
石田 有司

本市は豊かな自然に恵まれています。その分、猛威にも向かい合わなければなりません。昨年8月から10月にかけては、台風や短時間による豪雨などにより、各地で被害が発生しました。災害から自分や家族を守るために、台風や雨の情報などに注意するとともに、事前に避難所やその経路を確認し、非常持ち出し品を準備するなど、日頃の備えが大切です。ゲリラ豪雨など急激に起こる災害には、消防団をはじめ防災関係機関や事業者などの連携も必要になってきます。さらに、高齢者や障がい者の皆さんの支援には、身近な地域の人たちの協力が不可欠です。災害による被害を最小限に抑えるため、それぞれが日頃の備えをし、互いに協力し合える関係を作っておくことが大切だと思います。